第六回 日中書道交流展

つなぐ書

TUNAGU

書が日中の心をつなぎ、私たちはこの交流を未来へつなぐ・・・

第六回日中書道交流展が開催され、日中の友好を深めました。また、2020年東京五輪・パラリンピックに向けて、書道を通じて想いを共有し、機運を高めました。

問い合わせ　情報交流課　河原　☎(23)0040

第六回日中書道交流展が6月26日から28日にかけて、いらで開催されました。

この交流展は、平成22年に中国の子どもたちが教育旅行で牧之原市を訪れたことがきっかけとなり、中国でも大変著名な書法家である朱涛氏の提案により、平成24年から行われています。

今回、中国から参加したのは中国・上海市長寧区書法家協会関係者48人。会場には、市文化協会書道部の作品41点、上海市長寧区書法家協会の作品61点、計102点が展示されました。

書道の腕前を披露し合う書き比べ（席上揮毫）では、両国の書道家・書法家の皆さんが作品を書き上げるたびに、会場から大きな拍手が沸き起こっていました。

また、牧之原市は中国とアメリカのサーフィンチームのホストタウンになっていることから、東京五輪への機運を高めるため、「2020東京五輪・パラリンピック」をテーマとした友好パネルを共同制作しました。

中国の皆さんは、書道の他にも、茶道や浴衣の着付け、笑い竹作りなどの文化体験を満喫。牧之原市との友好が、より一層深まりました。

今回、両協会は「友好交流に関する協議書」を締結。更なる友好関係の発展に向け、交流をつないでいきます。

開幕式

開幕式では、友好協議書の締結や記念のくす玉割りが行われました

お出迎え

園児たちもお出迎えをしてくれました

作品鑑賞

参加者は、会場に展示された作品を鑑賞したり、作品の前で写真を撮ったりしていました

席上揮毫

両国の書道家の皆さんは次々に作品を書き上げ、作品の意味や、込めた想いなどを解説しました

パネル制作

それぞれの作品を貼り、日中友好パネルが完成しました

「東京五輪・パラリンピック」からイメージした言葉を表現しました

文化体験

中国の皆さんは、日本の伝統的な文化などを思う存分満喫していました